

中央教育審議会初等中等教育分科会 質の高い教師の確保特別部会

「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための 環境整備に関する総合的な方策について(審議まとめ)に関する意見

【2つの前提について】

教育投資の妥当性を検討する際の前提について、大きく2つのことを述べさせていただきます。

一つは、教師への期待は過去の延長線ではないこと、

もう一つは、我が国の公財政教育支出は、国際的に低い水準であることです。

2024年4月23日

一般財団法人クマヒラセセキュリティ財団
代表理事 熊平美香

【前提 1】前例のない時代に幸せに生きる力を育む学校へのシフト

学校と教師への期待を、過去の延長線で捉えるのではなく、前例のない時代を生きる子どもたちの人生と未来の社会のために必要な教育の実現を前提に教育投資を考える必要がある。時代が求める新しい教育に必要な力を教師が育むための『余白』も含めて、教師の働く環境を整備する必要がある。また、困難を抱える子どもが増え続ける状況において、すべての子どもの学ぶ権利を保障する学校を実現するためには、特別なケアを必要とするすべての児童・生徒に教師が向き合うことのできる『時間的・精神的余白』のある働き方を実現する必要がある。

教師への期待 高度化する専門性 その1 前例のない時代に生きる子どもたち

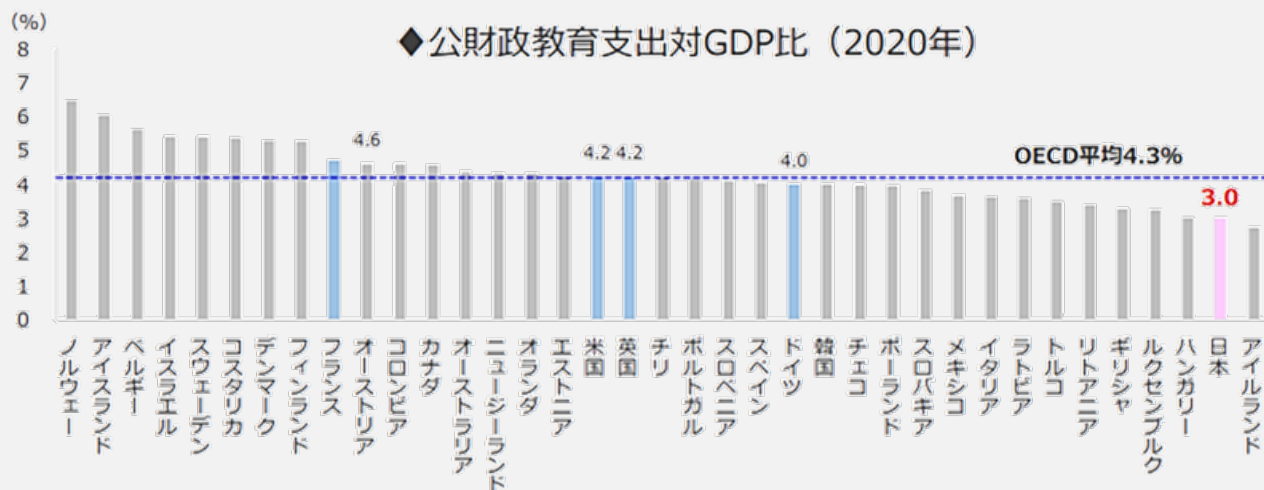
目まぐるしく変化する複雑な社会に生きる子どもたちは、学力以外にも、複雑な問題に対処する力や、自律的に自己をアップデートする力、自らの人生やキャリアについて自己決定する力、前例のない環境でも立ち止まらず仮説検証しながら正解を見出す力、AIやデータを創造的な活動に活かす力等の新たな力を身に付けることが必要になった。このため、学校現場では、現在、「答えのある時代の学校」から「前例のない時代の学校」への移行が始まっている。しかし、現在、教師は、自己の資質・能力等を高めるために研修や学ぶ時間を十分に確保することができてない。この状況を改善することができなければ、前例のない時代に幸せに生きる力を育む学校へのシフトを成功させることは困難である。また、自らの指導に確信を持つことができない状態で、子どもたちに向き合うことは、教師のウェルビーイングの観点からも、望ましい状態ではない。

教師への期待 高度化する専門性 その2 困難を抱える子どもたち

子どもたちの抱える課題は複雑化しており、教師は、不登校やいじめ、虐待や子どもの貧困、ヤングケアラー等の課題に対処するために、多様化する子どもの課題に関する専門性を深め、同時に、関係機関や支援スタッフとの連携強化を図ることも期待される。困難を抱える子どもたちへの対応は時間を要する。また、多面的多角的に課題を捉え対処する必要がある場合も多く、連携にも時間を要する。しかし、そのための時間を捻出することは困難である。その結果、困難を抱える子どもたちへの対応は、現在も十分とは言えない。教師が、特別なケアを必要とする児童・生徒に向き合うためには、時間的にも精神的にも『余白』が必要である。

【前提2】公財政教育支出の高い社会へのシフト

すべての子どもたちの健やかな育ちに欠くことのできない学校がその使命を全うするために、安心して教師が教育に専念できる環境を整備する必要がある。国際的に見ても低い水準となっている公財政教育支出を見直すことは、人的資本投資に力を注ぐ社会の方針とも一致しており、社会の理解も十分得られるものとする。



財務省2023年10月 文教・科学技術（参考資料）

おわりに

本特別部会の議論を通して、今、学校が岐路に立っているという認識に至りました。本特別部会の目的である「質の高い教師の確保」に成功しなければ、学校が、本来の存在意義を全うすることが困難になることは明らかです。すでに、社会では、「教師は、子どもたちの育ちや成長に貢献するやりがいのある職業」という認識が薄れ、「先生は大変な職業」という認識が広がりを見せています。この認識は、一部、メディア報道等によるイメージが先行した部分も多いと思いますが、本特別部会の議論を通して、教師の業務量は増加し続けており、同時に、その難易度も高まり続けているという実態も明らかになりました。今後も教師不足が続けば、一部の教師の負荷は更に増加し、教師不足の問題を解決することがより困難になると考えます。本特別部会の審議まとめが、教師の働く環境改善に繋がり、再び「教師は、子どもたちの育ちや成長に貢献するやりがいのある職業」という認識が世の中の当たり前になることを期待致します。そのために、必要な予算上、法制上の措置が速やかに行われることを心より願っております。